平成 29 年 12 月 1 日発行

みよし文化財だより

文化財保護課（歴史民俗資料館）　電話 049-258-6655

※「みよし文化財だより」は文化財保護課（歴史民俗資料館）が作成する不定期刊行物です

●歴史民俗資料館の展示に「力石」が加わりました

「力石」とは、余興として力競べに用いられた大きな石のことで、表面に石の重さ（貫目）などが刻まれています。竹間沢地区には、明治時代から大正時代の頃の話として、若者たちが力石を担いで力競べをしたという記録が残っています。

この度、竹間沢地区にある竹間神社と個人のお宅から、それぞれ３点ずつの力石が歴史民俗資料館へ寄贈されました。一番重たいもので約 130kg にもなる力石を、大人３人がかりでやっと持ち上げて歴史民俗資料館へ車で運び込みました。

歴史民俗資料館では、地域の歴史や文化を伝える貴重な資料として末永く保存していくとともに、多くの皆様にご覧いただけるよう展示公開しています。

※貫目の「貫」とは昔の重さの単位の一つで、１貫は約 3.75kg にあたる。
①～③は竹間神社より寄贈。④～⑥は竹間沢の個人宅より寄贈。

①「奉納　口保三年　五拾貫目　池上初五郎」
計測値：長 54cm×幅 41cm×厚 33cm。実重量：35 貫 200 匁（約 130kg）。

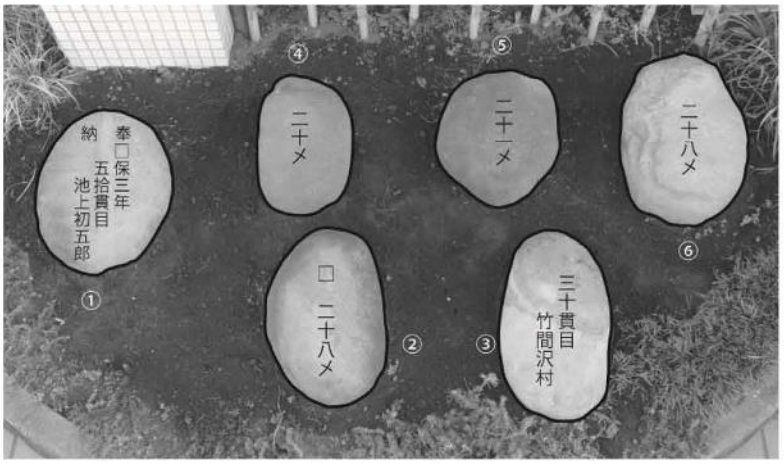
②「口　二十八メ」
計測値：長 56cm×幅 35cm×厚 27cm。
実重量：25 貫 100 匁（約 92kg）。

③「三十貫目　竹間沢村」
計測値：長 55cm×幅 29cm×厚 30cm。
実重量：29 貫 600 匁（約 109kg）。

④「二十メ」
計測値：長 52cm×幅 34cm×厚 26cm。
実重量：20 貫 700 匁（約 76kg）。

⑤「二十一メ」
計測値：長 45cm×幅 38cm×厚 24cm。
実重量：21 貫 40 匁（約 77kg）。

⑥「二十八メ」
計測値：長 64cm×幅 40cm×厚 28cm。実重量：27 貫 800 匁（約 102kg）。



☆三芳の力石に関する記録・話

『三芳村郷土誌』（大正６年頃編さん）

「娯楽　明治初年の頃までは（中略）壮年者は石【＝力石のこと】、土俵を擔ぎ角力を取り其の他撃剣、柔術等を行うなり（後略）」　　【　】は今回の挿入

『三芳町史　民俗編』（平成４年刊行）

「（要約）明治生まれの兄が、夜遊びに行った帰りに石担ぎとか土俵担ぎとかやったらしい。神社【＝竹間神社のこと】に大きい石があって、昔の人はその石担ぎをよくやった。　竹間沢　明治 38 年生　男性の話」　　【　】は今回の挿入